

学校の魅力化推進の取り組み

各校では、校区の地域性や学校の実態に応じて、学校の魅力化を高めるために様々な取組をしています。次の内容は各校の取組の内容はその主なものとなります。

【学年が 2 学級のある小学校】

【高富小学校】

- ・縦割り班活動による異学年交流・一人一人が活躍する場の位置づけ
- ・「よいことみつけ」を核に、節目となる活動を組み込んだ人権教育の充実
- ・児童プロジェクト委員会の学校行事への参画
- ・教科担任制の拡充によるより専門的な授業づくり 等

【富岡小学校】

- ・見守り隊による地域とともにつくる安心・安全な学校
- ・児童自ら考え行動する主体的なボランティア活動の推進
- ・山県市役所の指導ですすめる山県市のよさの情報発信(6年生総合学習)
- ・高富小学校とのオンラインによるひびきあい交流
- ・ICT を活用した学力向上の取組と宿題の見直し 等

【学年が単学級の小学校】

【梅原小学校】

- ・「三世代ふれあい」をメインテーマとした地域交流活動「ゆう・友ふれあいフェスタ」を、学校運営協議会の事業として、梅原校区青少年育成市民会議と連携して実施
- ・梅原公民館と連携し、公民館学習発表会において学習成果を発信
- ・加茂神社宮司、京都下鴨神社宮司の協力により、地域歴史学習を修学旅行とリンクして教科横断的な学習として実施
- ・大桑小学校、桜尾小学校とオンラインによる6年生の英語の授業を実施 等

【桜尾小学校】

- ・異年齢集団による課題追究学習
- ・ヘルスプロモーションスクールとしての健康教育
- ・高富中校区3小学校でのオンラインによる英語の授業の実施 等

【伊自良南小学校】

- ・伊自良北小学校とオンラインによる6年生の英語の授業を実施
- ・JA 伊自良支店、食農リーダーの方々と3年生がまめなかな運動を実施
- ・防災教室 岐阜大学の村岡先生による講話
- ・伊自良北校区の方による十六拍子の指導(クラブ活動、3年生の総合的な学習) 等

【美山小学校】

- ・地域講師を招いたキャリア教育「ふるさと美山」出会い・ふれ合い活動を実施
- ・いわ桜小学校の児童と合同スポーツテストを実施。
- ・低学年用・高学年用の2室に、ラウンドテーブル、ホワイトボードを整備し、異見交流の場として活用を開始 等

【複式学級のある学校】

【大桑小学校】

- ・桜尾小学校と梅原小学校で、オンラインによる外国語科の授業と学級活動を実施
- ・大桑小と福井市立一乗小学校とのオンライン交流及び訪問を実施
- ・オーストラリア在住の元ALTとのオンライン交流を実施
- ・PTA親子プログラミング教室を年3回実施
- ・全校児童による開校記念行事城山登山を実施 等

【伊自良北小学校】

- ・全校クラブ活動「十六拍子」の太鼓活動を実施
- ・全校児童による銀杏販売活動を実施
- ・甘南美寺の住職さんの講話と竹灯籠づくりを実施
- ・オンラインによる他校(いわ桜小、南小)との英語活動及び安全教室の実施
- ・県立岐阜高校生物部とのギフチョウ交流授業を実施 等

【いわ桜小学校】

- ・美山小と各学年オンラインによる合同授業「総合的な学習」と「体育(スポーツテスト)」を実施
- ・鹿児島県和泊小とのオンライン交流を実施
- ・美山中での体験授業 技術、英語 合同の音楽鑑賞
- ・伊自良北小とオンライン合同英語 6年 全校合同シートベルト体験 等
- ・あまごを飼育と放流を実施

【中学校】

【高富中学校】

- ・山県市役所職員と地元企業の方による「職業講話キャリアナビ」を実施
- ・地域とともにある学校を実現する青少年育成推進委員の方と地域生徒会とが話し合う「5校区の会」の実施
- ・ダビンチルーム形式をとった「異学年で教え合うテスト前学習会」の実施
- ・日課の見直しによる掃除なしから見出された「ボランティアの日」を位置付けた 等

【伊自良中学校】

- ・キャリア教育の一環として、「立志教育(志授業・立志教育講演会)」を実施
- ・オンラインにて岐阜希望ヶ丘特支学校との交流を実施
- ・伊自良地区スクールサポーターズ協議会(3校合同の学校運営協議会)の開催
- ・花咲きホールにて合唱祭を開催し、校区小学生(6年生)を招待
- ・外部検定(漢検・数検)を準会場として実施 等

【美山中学校】

- ・フィンランドの中学生, オランダの家族との Web 国際交流
- ・生徒同士が毎日肯定的で情緒的な交流をする「サークルタイム」と個別最適化学習のための「ドリルパーク」を実施
- ・美山地区の会社経営者や施設責任者を講師にしたキャリア教育「わが社自慢講座」
- ・フィンランドとオランダで働く日本人を講師で Web グローバルキャリア教育を実施
- ・社会を支える若きプロから学ぶ Web キャリア教育等

<考察>

令和 2 年度に、全ての小中学校のICT機器の充実を図ることができました。これによって、他校や他県、他国とオンラインによる交流活動を積極的に実施することで、児童生徒の視野を広げることができ、自校の教育活動に活力を与えることができました。

また、異学年の仲間や地域の方等と関わることで、自分たちの住む地域のことについてもっと知りたいという意欲が増すと共に、相手意識をもって意欲的にコミュニケーション活動に臨む姿が見られるようになった。

また、自分たちが住む山縣市に対する思いを深め、地域貢献の意識を高めると共に、地元企業の方の職業観を聞き、生徒の進路設計の契機となった。